

(一社) 茨城県建設業協会

県内公共工事一斉休工期アンケート調査結果

1. 目的

茨城県建設業協会が、希望と魅力にあふれ、若者に選ばれる建設業の実現に向けて実施した、会員企業が受注しているすべての公共事業工事を一斉休工とする、「県内公共工事一斉休工期」についての取り組み状況を把握し今後の活動資料としての目的とする。

2. 対象

一般社団法人 建設業協会 会員企業 551 社

3. 総回答数 (2020年4月22日現在)

技術者 257 件

経営者 199 件

4. アンケート調査ポイント

【経営者】

◇一斉休工に「積極的に取り組んだ」が33%(65社)、

「ある程度取り組んだ」、「少し取り組んだ」を含めると87%(172社)が取り組んだ

◇「一斉休工に取り組む前後での変化」では、「現場の負担が増えた」と感じる回答が最多

【技術者】

◇一斉休工を「毎月実施した」が40%(103件)「4~5ヶ月に1回実施した」まで含めると、76%(194件)が一斉休工に取り組んだ

◇「一斉休工に取り組む前後の変化」では「ゆっくりと体を休められた」が最多。

経営者で最多回答の「現場の負担が増えた」は、技術者では2番目に多い回答となった

◇一斉休工について「どちらかと言えばメリットが多い」を含めると、全体の約50%が「メリットを感じている」と回答

単独回答で最多(38%)となった「どちらでもない」の理由としては、工期・工程への影響を心配する声が多かった

【全体】

◇経営者、技術者ともに、一斉休工の取組は**若手の入職を促すには必要**と考える一方、天候や日給作業員の観点から難しさも感じている傾向が見られる

◇経営者、技術者ともに、週休2日実現のためには**余裕のある工期設定、日給労働者の給与補償、発注者の理解、工事費のアップ、工事書類の簡素化**の5項目が必要と感じている

5. 参考

アンケート方法

Web・メール・FAX等により募集

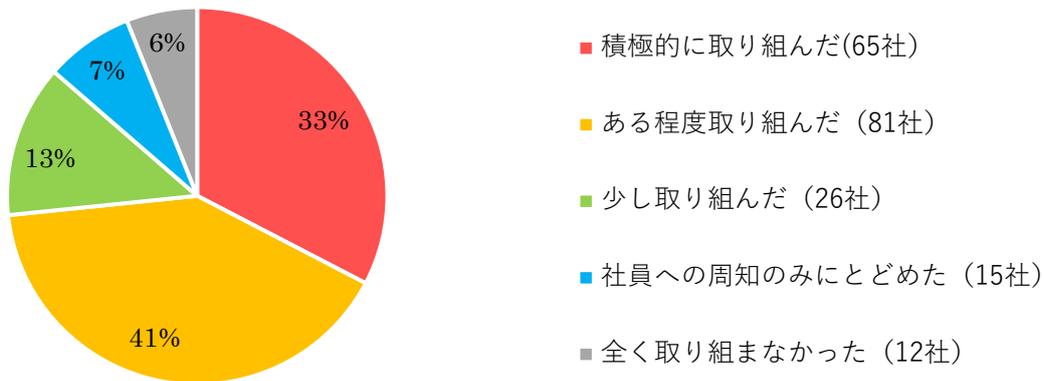
アンケート回収期間 2020年3月18日~2020年4月17日

アンケート調査結果について【経営者用】

【問1】会社として公共工事の一斉休工に取り組みましたか

- ・「積極的に取り組んだ」が33%(65社)、「ある程度取り組んだ」、「少し取り組んだ」も含めると87%(172社)が、会社として取り組んだ
- ・「まったく取り組まなかった」は6%(12社)

【問1】会社として公共工事の一斉休工に取り組みましたか

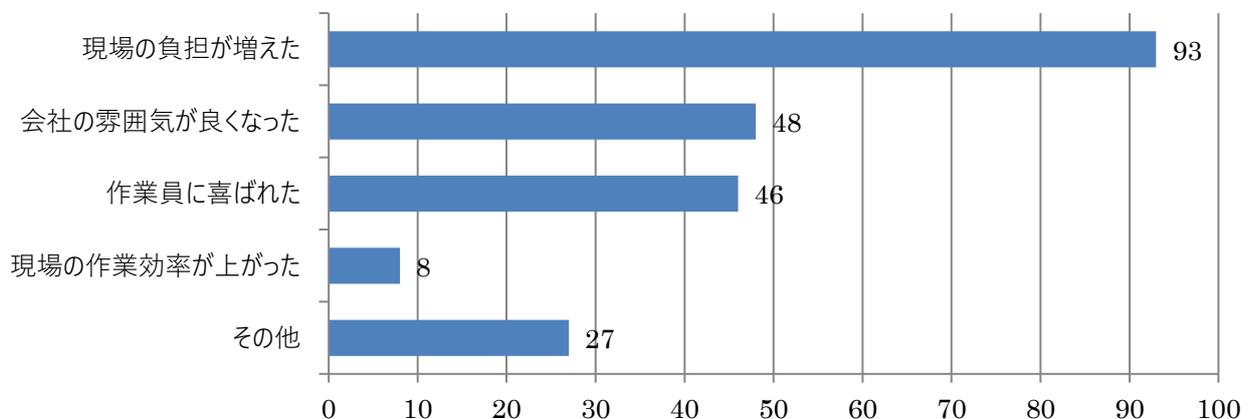


【問2】一斉休工に取り組む前後で、どのような変化がありましたか（複数回答可）

- ・「現場の負担が増えた」が93件で最多、「会社の雰囲気が悪くなった」が48件、「作業員に喜ばれた」が46件と続いた

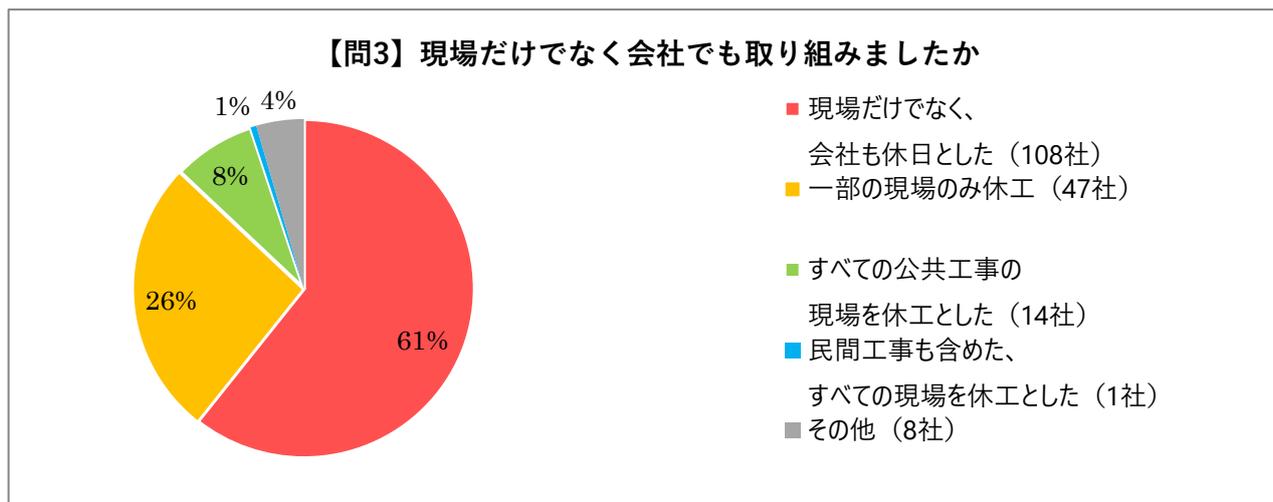
※その他として◎天候、工期、自然災害等工事で負担が増えた一などの意見が寄せられた

【問2】一斉休工に取り組む前後で、 どのような変化がありましたか（複数回答可）



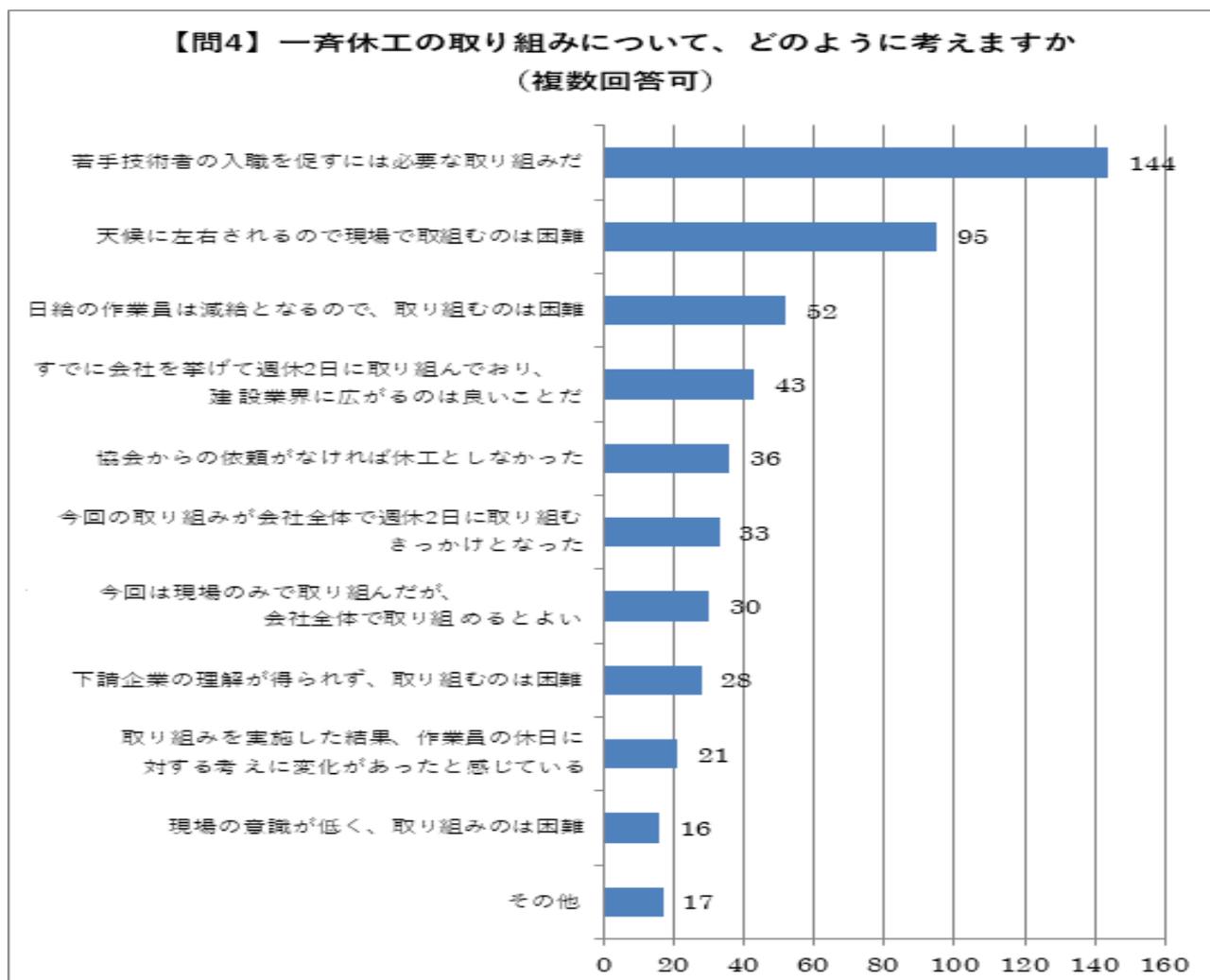
【問3】現場だけでなく会社でも取り組みましたか

・「現場だけでなく会社も休日にした」が61%（108社）、「一部の現場のみ休工」は26%（47社）



【問4】一斉休工の取り組みについて、どのように考えますか（複数回答可）

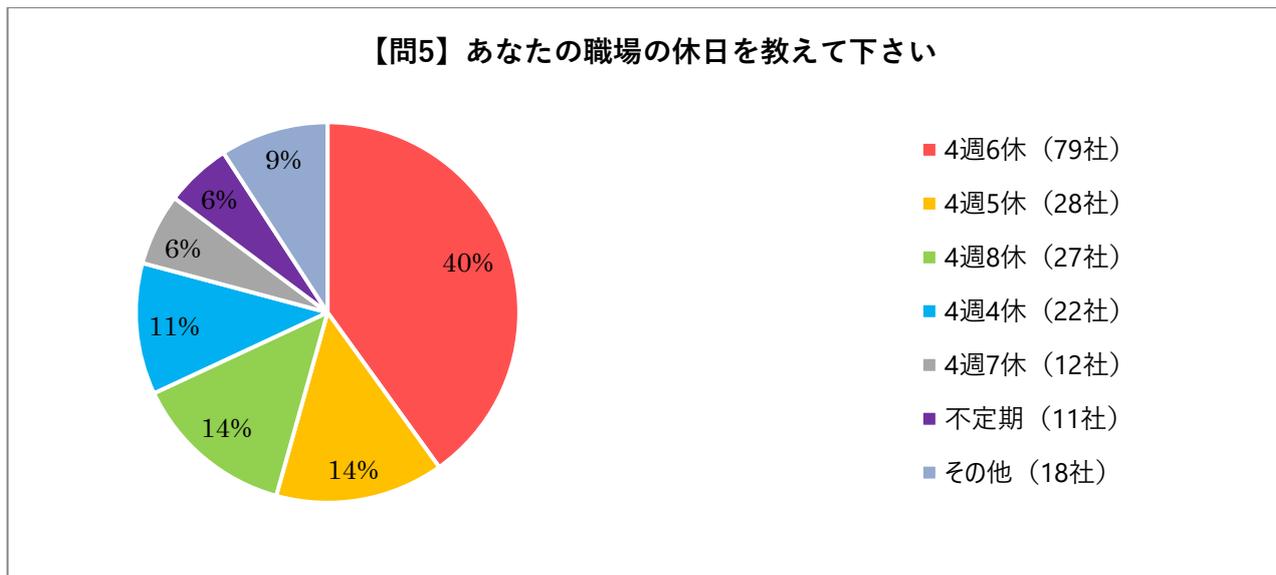
・「若手技術者の入職を促すには必要な取り組みだ」との回答が144件で多い一方、「天候に左右されるので現場で取り組むのは困難」（95件）、「日給の作業員は減給となるので取り組むのは困難」（52件）と、取り組みの難しさを訴える回答も少なくない



【問5】 あなたの職場の休日制度を教えてください

・休日は「4週6休」が40%、「4週5休」と「4週8休」がいずれも14%、4週4休が11%。

※その他として◎会社の年間休日カレンダーによる◎36協定に基づくーなどの回答があった

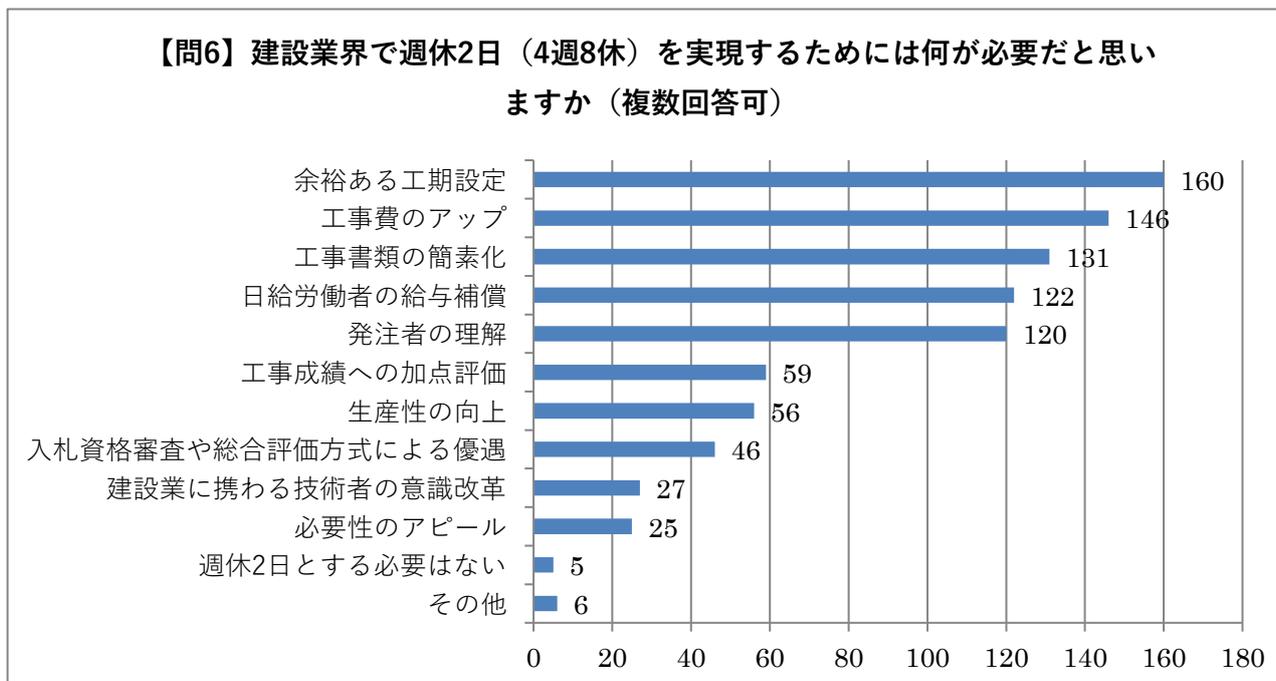


【問6】 建設業界で週休2日（4週8休）を実現するためには、何が必要だと思いますか（複数回答可）

・「余裕ある工期の設定」が160件、次いで「工事費のアップ」が146件、

「日給労働者への給与補償」と「発注者の理解」が120件を超えた

・昨年度調査と同じ傾向だが、新たに加えた「工事書類の簡素化」が131件と多くの回答を集めた



【問7】上記のほか、建設業における週休2日（4週8休）の実現に

ご意見がありましたら記入してください。

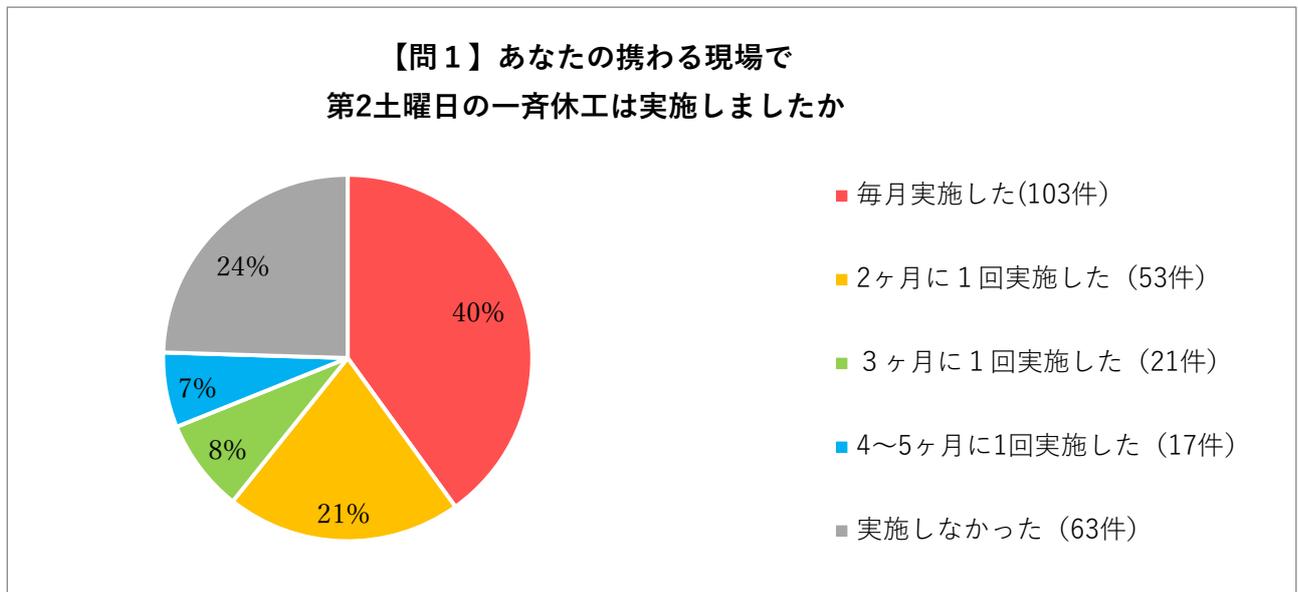
お盆、ゴールデンウィーク、正月を大型連休にしているので、週休2日はむずかしいが努力してみたい。
急ぎすぎではないかと考えています。
何ととっても天候に左右される業種なので難しい。発注者の工期・工費の設定次第です。
土日にもかかわらず、雨天・荒天の平日を休みと入替したい。
古い世代の考え方を直させる。
週40時間労働を年間カレンダーで対応している。
公共工事だけでなく、民間も入れて、業界全体で取り組むことが必要と思う。
建設業者は加点されるという状況だと何でも取り組むのが早いので、加点はされた方が良いと思う。日給者が日給のままだと4週8休は難しいので賃金体系を考えるべきだと思う。
仕事が趣味のように生きている人がいる事も忘れないで欲しい。
自社で設定している変形労働時間の休日カレンダーと合わない。(GWや夏季休暇を大型化して、繁忙期の出勤日に充当しているため)
十分な環境の整備が整ってない現状で無理に実現させようとするには負担が大きい
公共、民間工事共に発注者の理解が必要です。(工期、工事費等)
この取り組みは一刻も早く実行しなければ業界の将来が先細りになると思います。
公共工事だけで食べていけるのであれば、工期を伸ばしたり補償したりで週休2日は実現可能だと思うが、民間も含めると難しい問題だと思います。また、他業種では週休2日は当然の事で、改善に取り組んでいる事をアピールし過ぎるとマイナスイメージになりそうな気がします。
民間工事、特に建築工事は工程が厳しく対応に考慮している。工程と費用の問題を官民間問わず国より指導して欲しい
工期と天候に左右されるため、決められた日付、曜日より、日数確保を重要視したいと思います。
自社は週休2日（4週8休）を実現できるが、全ての施工現場を自社でまかなえず協力業者に手伝わってもらう場合、国・県は週休2日を達成すれば増工になり協力業者に支払えるが、市町村は週休2日が遅れているので、自社の技術者も協力業者も週休2日が達成しにくいので、国・県・市町村で足並みを揃えていただきたい
特に建築現場は下請け、また職人は請負契約が多いので職人は休まず働きたい希望が多い
業界全体で必ず2日休むという流れができないと民間工事の競争の中で実現は無理だと思う
雨が多いと非常に困る 発注者の柔軟な工期延長の対応3月末工期、オープンが決まっている現場などは難しい。よく適切な工期設定が重要と言うが何が適切なのかは定義が難しい（1班で施工するのと2班で施工するのでは当然スピードが違う。何班で施工するのが適正なのかは定義が難しいのではないかと）
書類の簡素化はどうにかならないのか？
以前、簡素化の動きがあったが結局あまり変わっていないどころか、ICTなど新しい事も増えてきているので書類が増加しているように感じる。現場が休みの時でも代理人は書類をせざる得ない
我々企業側も作業の効率化と生産性の向上に努めることが求められる
民間工事もあり調整が難しい
建設業という産業性格上気候の影響を直接受けるので、その点を発注者の理解及び対策がなされないと、この施策は進まないと思う

設計労務単価のさらなるアップ（2割程度）を望みます。
建設業界は4週8休に対して改革が他の業界から遅れをとっているとする
作業員の高齢化もあり、若手技術者を1人でも多く入職させるためには最低限必要な取り組みとする
現場を休工としても、現場代理人等は書類作業をしていた事もあり、休日を増やすと、残業が増える事も考えられる
まずは工事費のUP・及び工事書類の簡素化につまる
生コン・合材・砕石工場及び、民間の工事現場も巻き込まないと、実現は難しいと思う
天候に左右される現場での代休等の考えを入れて休日の設定をしている
日給の作業員の単価を考えて月の給与の判断をしないといけない
前向きに取り組む余地はあるが、実際の所民間工場だと土日しか工場内の作業が出来ないと言われる事が多々ある。その為社内でも対応が分かれる場合があります。その為に地道にこの流れをあらゆる発注者に理解して貰う為活動していく事が大事だと思います。
公共・民間共に発注者の意識が変わらなければ週休2日には出来ません。休日出勤が増えるだけです。
民間工事も週休2日となるような制度になってほしい
本人の働き方に対する意識が良いほうに向上するのであればよいのだが世界と戦っていくこの時代にこの国が勝ち抜いていかなければならない意識も重要とする。
働き方改革は一部大手企業の超ブラック就業（電通等）など常軌を逸した問題を基準に考えられていると思っている。地方建設業界はそこまでのブラックな企業は存在しない。給与が十分保証されている大手企業の出世意識過剰なための過剰労働と同一視してはいけない。
ICTを本格的に導入してから、どうなるか様子を見たい
現場の担当者は当初工程を設定した時に十分な余裕がないと中々現場を休工にするのは抵抗があるようです。
建設業は天候に左右される為4週8休とした場合雨天日が他に4日あると月間労働日は18日となり日給労働者は生活が困難になるがゆえに第二土曜日を週休2日にして雨天日を振り替え休日としたらどうか？
問6の繰り返しになってしまうが、週休2日を実現するために建設業者がどう取り組むかというテーマのようだが、何よりも、「工事発注をどう早めるか：前年比1(1.5)ヵ月前倒し」といった目標をコンサル業者・役所がどう実現するかを真剣に考えていただきたい。難しい課題だが、こういう声あるという事が役所に届き、徐々に浸透していき結果として週休2日が実現していくものだと思う。木(休暇)を見て森(発注の構造・遅いという欠点)を見ずでは、いつも泣かされるのは業者という構造に変わりはない。休日を増やすことは実質上ベースアップに繋がる為、休日設定については各会社が各々の実情に合わせ決めることであると思います。休日を増やすことだけが働く環境整備ではなく、経営者が本気になり「社員の幸せ」を追求することが重要であると考えます。

アンケート調査結果【技術者用】

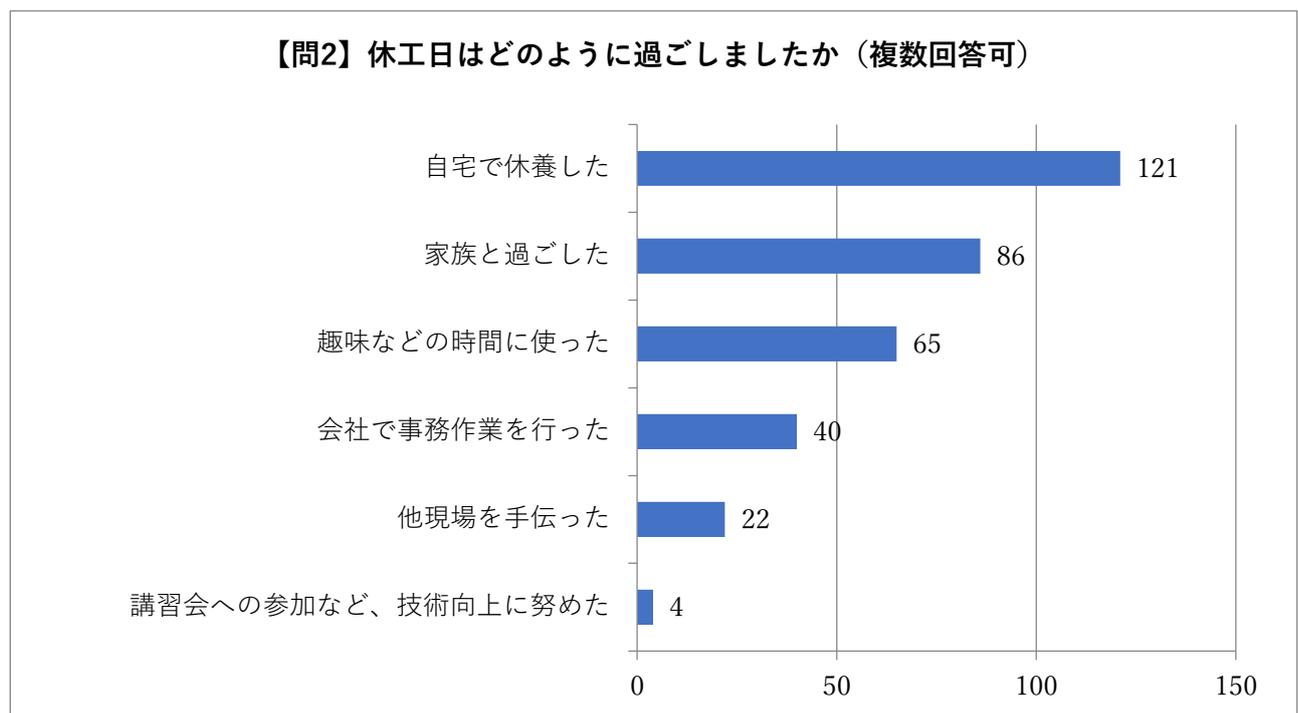
【問1】あなたの携わる現場で第2土曜日の一斉休工は実施しましたか

- ・「毎月実施した」が40%（103件）と最も多く、続いて「2ヶ月に1回実施した」が21%（53件）
- ・「4～5ヶ月に1回に実施した」まで合わせると76%（194件）で一斉休工を実施した



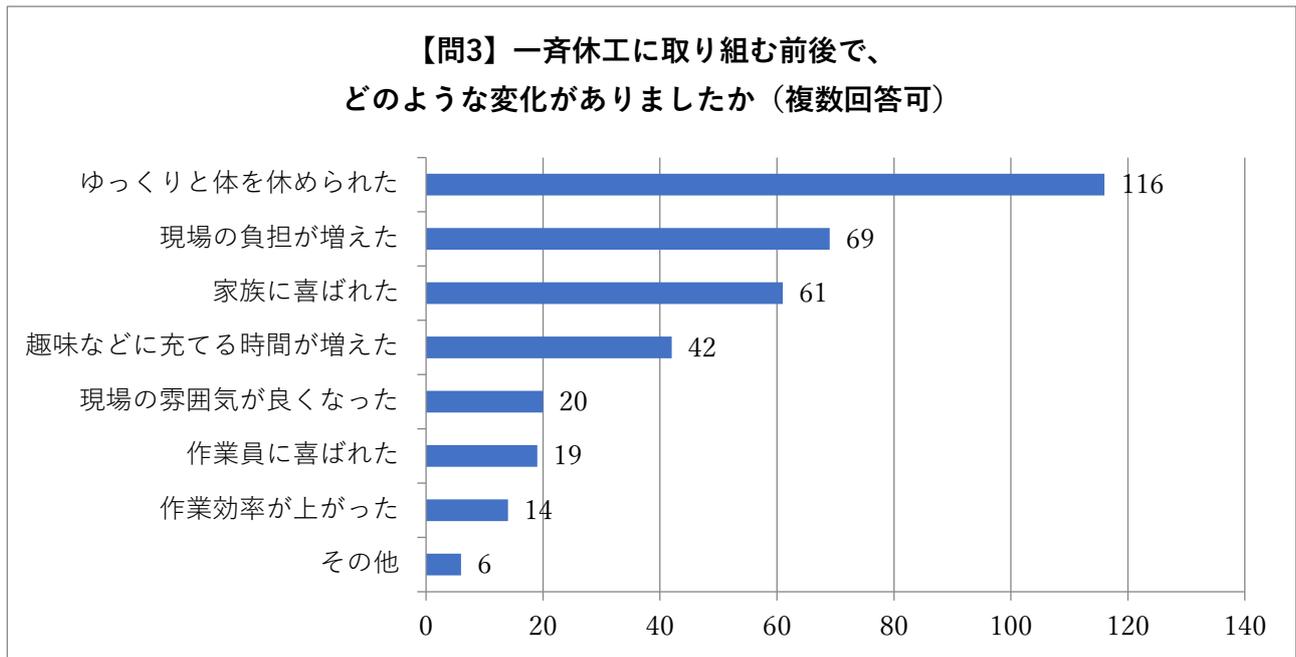
【問2】休工日はどのように過ごしましたか（複数回答可）

- ・「自宅で休養した」（121件）に、「家族と過ごした」（86件）、「趣味などの時間に使った」（65件）が続いた
- ・一方で「会社で事務作業を行った」、「他の現場を手伝った」という回答も合わせて62件となった



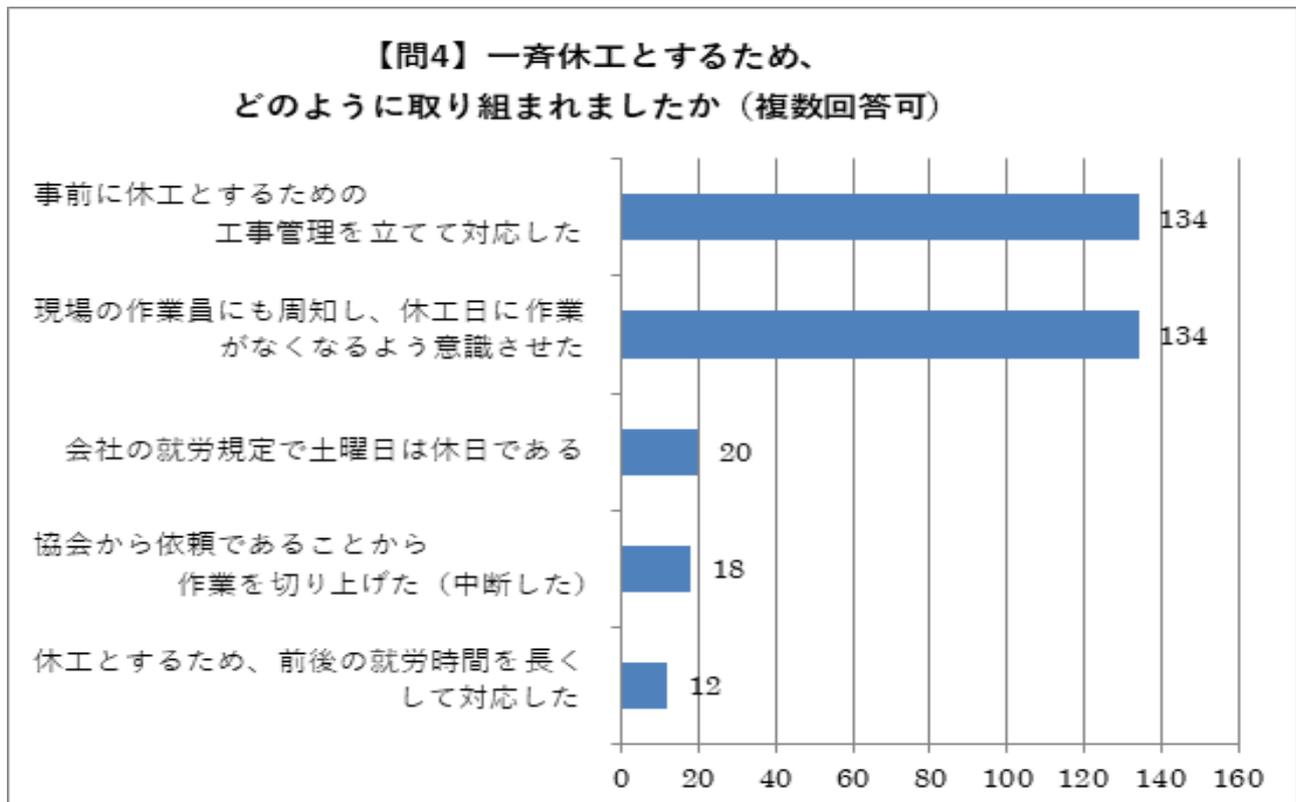
【問3】一斉休工に取り組む前後で、どのような変化がありましたか（複数回答可）

・「ゆっくりと体を休められた」（116件）に、「現場の負担が増えた」（69件）が続いた
※その他意見として、◎平日に書類の整理の負担が増えた一などの回答があった



【問4】一斉休工とするため、どのように取り組みましたか（複数回答可）

・「事前に休工とするための工事管理を立てて対応した」と、
「現場の作業員にも周知し休工日に作業がなくなるように意識させた」が134件で同数
・昨年度の調査と全く同じ傾向となった

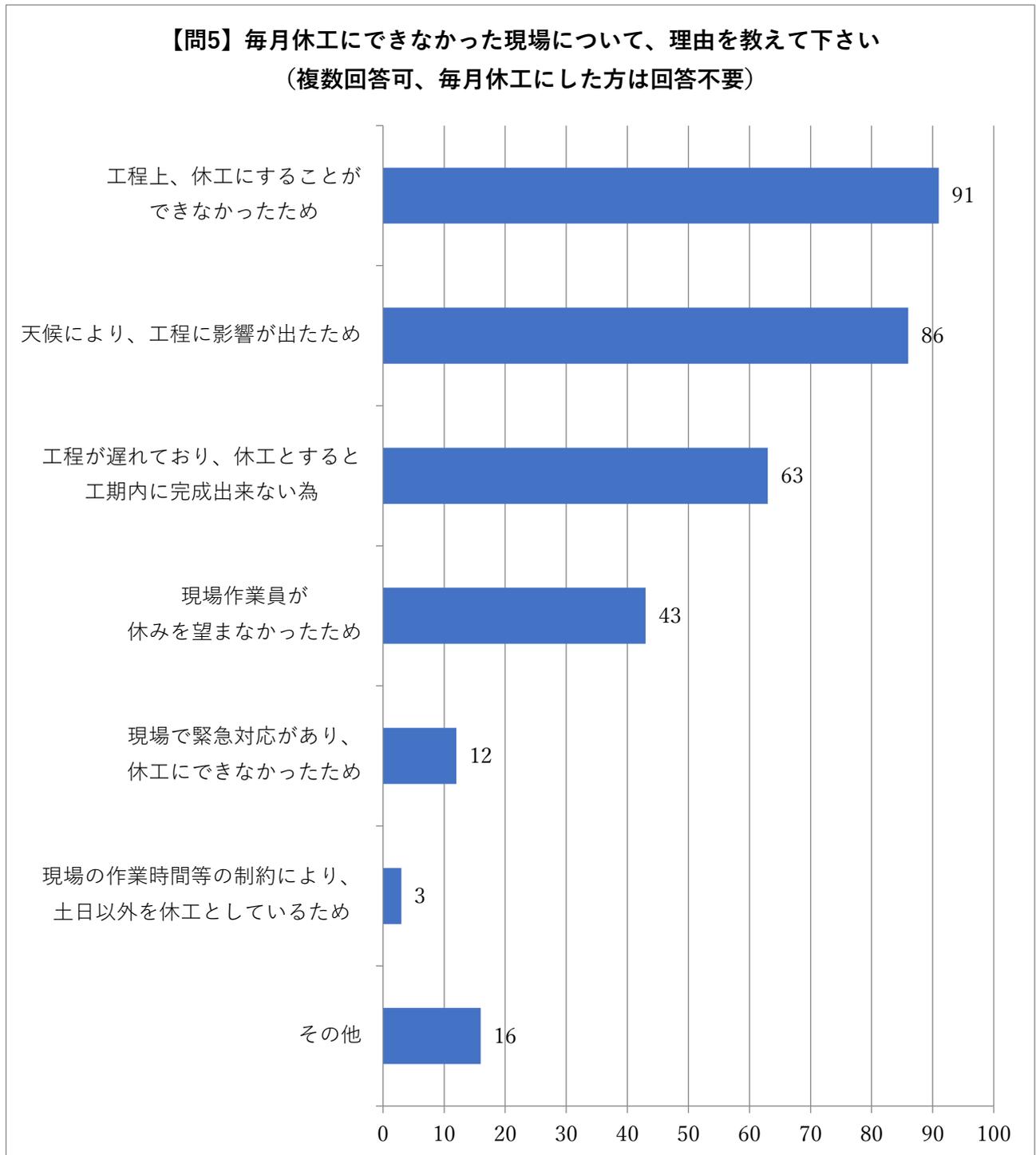


【問5】 毎月休工にできなかった現場について、理由を教えてください

(複数回答可、毎月休工にした方は回答不要)

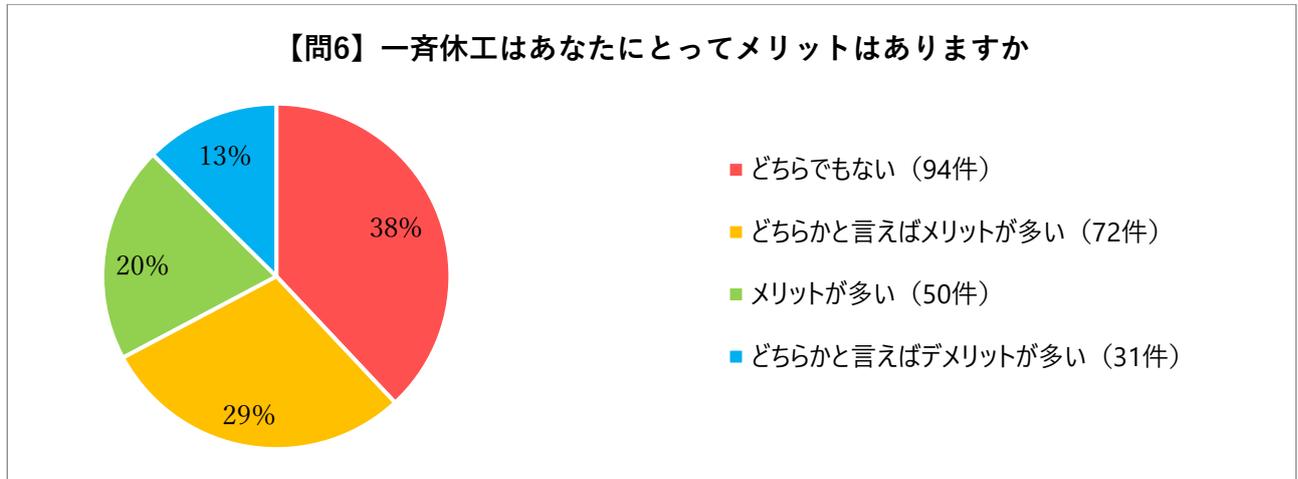
- ・「工程上、休工にすることができなかった」が 91 件で最多
- ・「天候により、工程に影響が出たため」が 86 件

※その他として、◎工期的に休工にするデメリットが大きい、◎下請け業者の都合一などの意見があった



【問6】一斉休工はあなたにとってメリットはありますか

- ・「どちらでもない」が38%（94件）で最多。理由では工期・工程への影響を心配する声が多かった
- ・「メリットが多い」（20%）、「どちらかと言えばメリットが多い」（29%）、「メリットが多い」で、全体の約50%がメリットを感じている



【問6】の理由を教えてください

・メリットが多い

心身ともに健康でないと作業効率が低下するため
仕事の事を考えず優雅な時間を過ごせる
休養、趣味、家族サービス、勉強などの時間ができるので充実した休日が過ごせる
家族と一緒に過ごす時間が増える
プライベートが充実する
勉強、趣味に当てる時間が増える

・どちらかと言えばメリットが多い

前もって休日がわかるので予定が立てやすい
学校や町内の行事に参加できる
体を休められる
時間に余裕が、出来る
気分が安らぐし、体も楽になるから
一斉休工日を設けることで、事前からの段取りができ、休日の予定が立てられる
事務処理の時間にあてられる
リフレッシュの時間が取れるようになったから
家族と過ごす時間や趣味などの時間が増えた
体を休められるから
事前工程の調整は必要だが、体をゆっくり休められる為

・どちらでもない

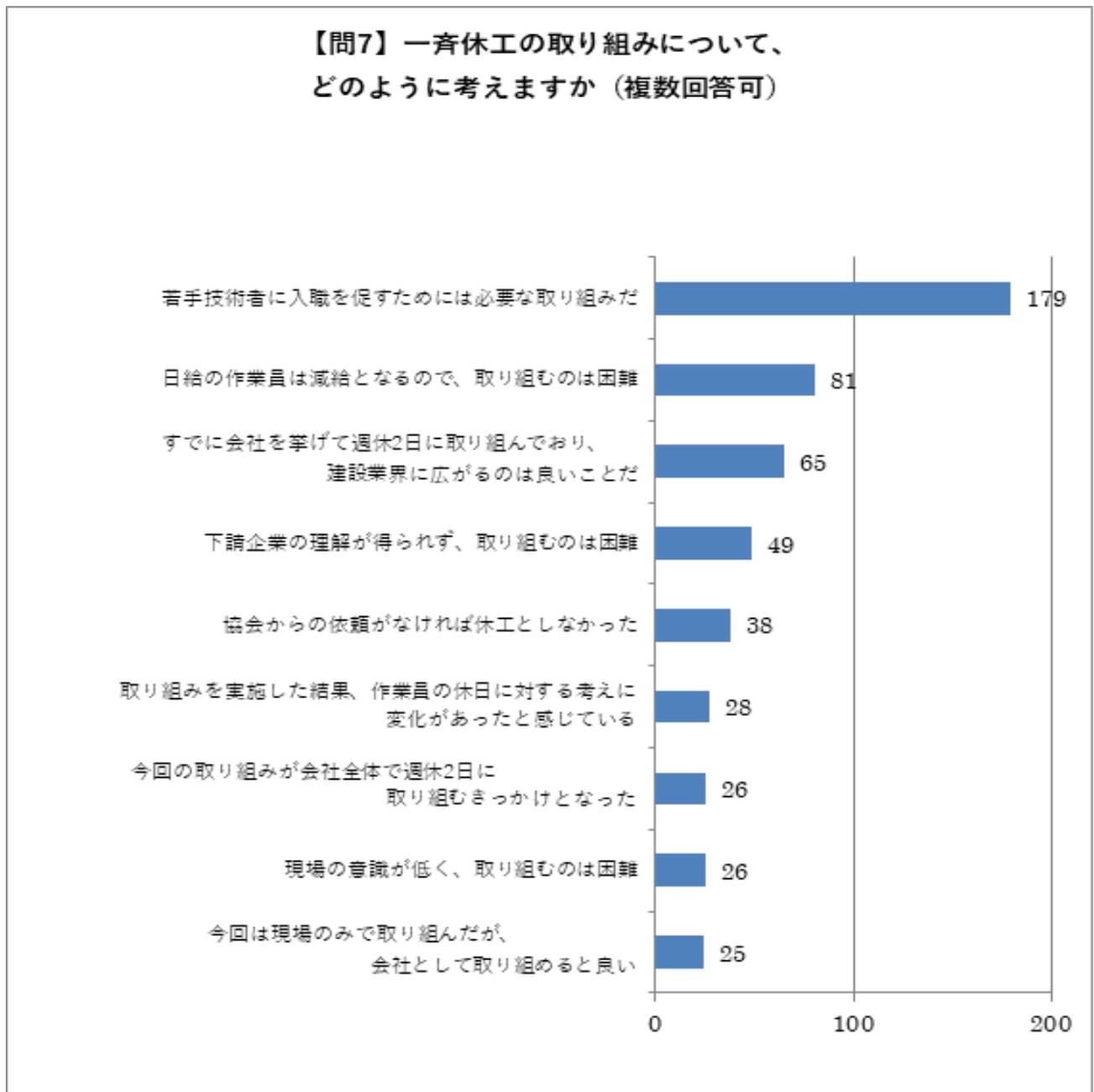
自分にはプラス、工程の管理や作業員の確保にはマイナス
現場の状況や時期によるため
工程が遅れているときは休みに出来ない
工期が短く設定されている工事では、休日に体は休められるが、その分別の日に負担となる
雨の多い月は、工程に影響が出たから
実施していないので分からない
作業員の給与補助が必要になりますが？
メリットもあるがデメリットもある
すでに週休2日に取組んでいるため
工期を守れない可能性がある、平日に書類等のしわ寄せが来る
仕事が好きなのでしていきたい
負担になることもある為
工程の見直しが必要で、再確認が出来る
雨天等、天候の悪い時は、現場を休止して遅れが生じると大変な為、雨天等で作業中止日を休日に当て、土曜日は通常作業にしても良いと思うから
天気に左右される
実践したことがないのでよくわからない
一斉休工を取る為の準備作業が増える
実施したいと思うが現場の状況による

・どちらかと言えばデメリットが多い

天候により工程に影響がでるため、完全な週休2日は難しいため
作業日数が少なくなり工期に間に合わなくなる
前後が雨天で連休になる
段取り連絡ができない
やはり差し詰まっている工務店だと作業したい場合がある
休むつもりがないからです
他業種の人が休んでいる中、作業しなければならないので精神的につらい
現場が進まない
【問5】回答の通り一斉休工しては契約工期を遵守できないため
天候不良もあり、工期中に完成出来ない為
受注した時点で工期がなく休工日を入れた工程が組めない
事務作業が間に合わない

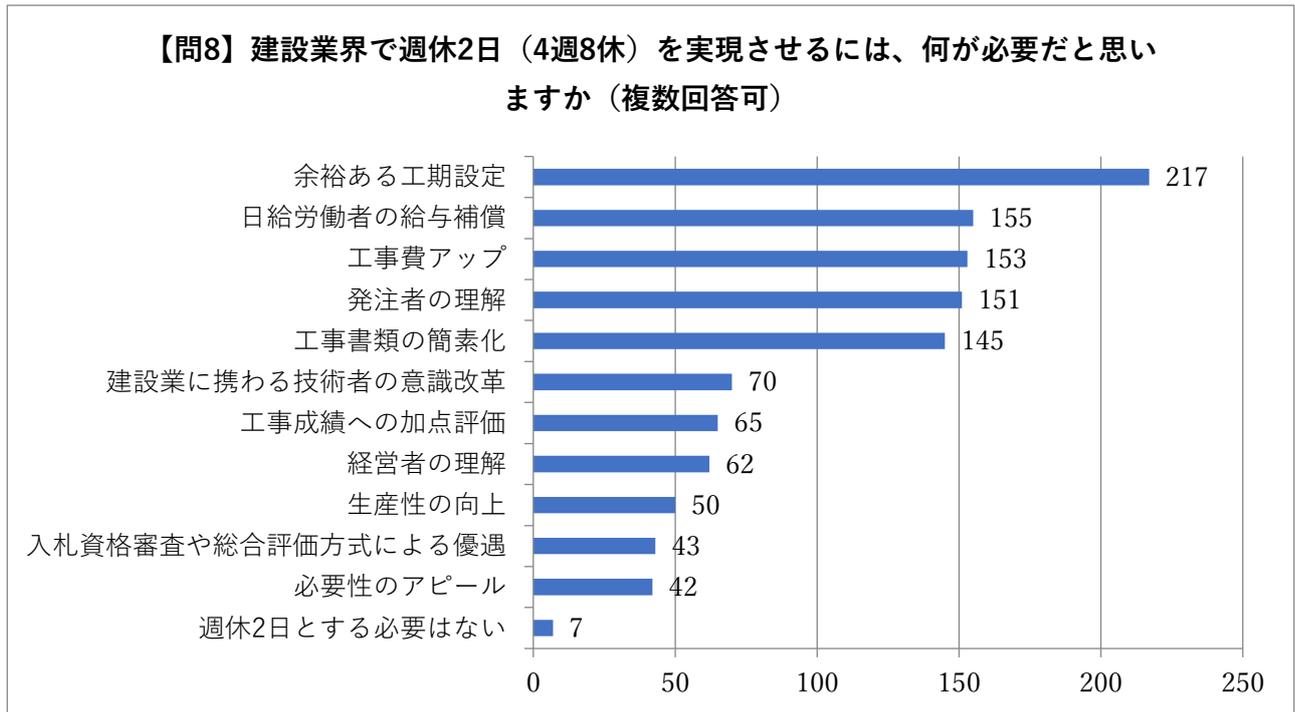
【問7】一斉休工の取り組みについて、どのように考えますか（複数回答可）

- ・「若手技術者の入職を促すためには必要な取り組みだ」（179件）が最多となったが、「日給の作業員は減給になるので取り組むのは困難」との意見も80件を超えた



【問8】建設業界で週休2日（4週8休）を実現させるには、何が必要だと思いますか（複数回答可）

- ・「余裕ある工期の設定」が217件と最多、「日給労働者への給与補償」、「工事費アップ」および「発注者の理解」が150件を超え、「工事書類の簡素化」が145件で続いた
- ・上位5項目が飛び抜けて回答を集める傾向は、経営者と同じ



【問9】上記のほか、建設業における週休2日（4週8休）の実現に関して、

ご意見がありましたら記入してください。

工事契約のなかに土曜は作業なしの項目を入れれば確実に休工すると思います。
年度末の工期設定が少なくなれば、実現に近づく要因の一つになるのではないかと。
下請業者、作業員の給与体制を考えると難しいのが現状です。
現場毎に条件（作業・施工）が違うので、週休2日を実現できる現場と難しい現場があると思う。
日給月給の作業員の補償（実質ベースアップ）が必要だと思う。
間接工事費の率の見直しから工事費の改善を計るようだ
出来れば実現してほしい
専門業種の下請会社が少ないので、作業休工の時に他の現場で作業するのが実態です。
外にも、民間工事への周知アピールも必要で業界全体（官・民）にて、4週8休の実現へ向けて周知が必要
盗難対策やパトロールなどで現場経費の負担が増えるのではないかと
災害対応などで休みをとれない業種もあります。
やるなら早く実行してほしい。
誰もが休みたいが、工期、経費の問題、下請、孫請けの収入、職人の給与補償が満足できるようにしなければならぬと考えます。今後そのようになればよいと思います。
柔軟に工期延長をして欲しい。書類が多すぎる。
天候や工期等さまざまな問題がある為、完全週休2日はなかなかむずかしいと思う
発注者からの強制及び経営者の理解と協力

機械及び仮設材の賃料が増えてしまった
設計変更における発注側の短時間での対応や、事前調整をしっかりと頂きスムーズな施工が出来る様コンサルの徹底指導をお願いしたい
下請業者の理解が必要
一斉休工にするためには【問7・8】回答の他に現場スタッフの取り組み、認識、作業員の協力で実現するので施工計画、検討、毎日の打合せ、調整等の現場管理・工程管理・原価管理などを行い進捗が図れば可能と思われまます。会社側も作業所へ出向き指導していくことで一致協力する意識の向上に努め一斉休工の実現に取り組んでいきます。
質問事項にもありますが、順序として①労働単価の満足のいく引き上げ→②工事書類の大幅な簡素化（中間、施工時の検査チェックリスト、内容の大幅な削減）概算経費率の引上げ、生コン、鉄筋、鋼材等の実購入単価での見直しが必要
実際に出来たらいいと思う
学生たちは、完全週休2日制度で学生生活を送ってきている中で土日出勤には抵抗があるだろうし、担い手確保の観点から考えても週休2日制の実施は必須と考える。また設計段階で余裕ある工期設定でお願いしたい。
発注者からの指示であれば、実現しやすいと思う。（現状は希望型）作業員の高齢化によりベテラン作業員が少なくなっている事で、人手不足や施工能力の低下となり、人員確保困難による着手の遅れや1施工当りの日数が増加している事が現状である。このため、工期設定の見直しや、工事費（経費）の見直しが必要であると思う。今現在の工期も適正工期ではないと思う。
休みが増えた分のしわ寄せが平日の残業にくる。
天候に左右されるので無理なのではないか？
建設業界として更に各方面にアピールし、強く推進すべきだと思う
休日を増やす事も大事かもしれませんが給与の底上げも同時に増やす必要があります
工事費のアップ及び日給労働者への給与補償等を条件に入れる事
休工にするメリットが会社側には殆どないと思う。また工期的にも休工にすることでのデメリットが大きい。休んでいられないと思う風潮がなくなる限り難しい
余裕のない工期必要以上に求められる書類等以上の事を改善しないと現状不可能だと思います
建設工事の中でも特に建築工事においては客先の都合や複数の業種が入りながら現場を進めていく中でどうしても週休2日の実現をするには調整が出来ない場合も多くあります。週休2日を踏まえて工期の設定がなされているかという点もそういう風にも感じません。また近年若手の職人が増えない中で工事を進めるには、ある程度の日数をかけるしかないのかなと思います。工事を行う人数が増えていかないのでは今後も難しい様に感じます。この業界に入るメリットを感じる若手が少ない現状を変えるために週休2日にするのは良い事だと思いますが、それ以上に興味を持って貰える何かが必要なのではないでしょうか。
週休2日制を実施するにあたって、工事現場によっては実施するのは厳しい所もあります。現場状況によっては工期ギリギリになる可能性があるのではと場合を考えた方がいいと思います。余裕のある工期が求められると思います。
まずは発注者に余裕のある工期設定を願う事
休日を増やす事も大事かもしれませんが、給与の底上げも同時に進める必要があると考えられます
工程に余裕があったり、工程の隙間があれば土曜に休めるがそれでもなければ、土曜日の作業はあるものと前提で考えている。週休2日を行っていても、工程が遅れ詰めることを考えれば自ずと4週4休で工程を組みます。
天候によっては休工日があったくない（平日雨天の時）

工期設定に余裕がなければできない、県や市の理解がもっと必要である。
週休2日制を実施するにあたって、工事現場によっては実施するのは厳しい所もあります。現場状況によっては工期内ギリギリになる可能性があるのではと場合を考えた方がいいと思います。余裕のある工期が求められると思います。
余裕のない工期、必要以上に求められる書類等以上の事を改善しないと現状不可能だと思います。
休工にするメリットが会社側には殆どないと思う。また工期的にも休工にすることでのデメリットが多い。休んでいられないと思う風潮がなくなる限り難しい。
日給月給の人たちの補償を考えなければいけないと思った
設計段階で余裕ある工期設定でお願いしたい。
当初設計において、余裕を持った工期設定が必要である。